

## 肥満手術後の効果は術後 1 年後が最大

重度の肥満症（肥満度指数[BMI]35 以上）には健康面で様々なリスクがある。肥満手術により体重が減少し、短期的な健康の改善がみられるが、術後の長期的な効果についてはほとんど知られていない。そこで、本研究では肥満手術後 3 年間の体重変化と、健康に影響を与える要因について報告した。

アメリカ合衆国の 6 つの地域の病院 10 施設において、2006 年から 2009 年に初回の肥満手術を受けた患者を 2012 年 9 月まで追跡した。術前と術後 6 カ月、12 ヶ月、その後 1 年ごとに評価を行った。

調査開始時、被験者 (2,458 人) は 18 歳から 78 歳で、79%が女性、BMI 中央値は 45.9、体重の中央値は 129kg であった。初回の手術として 1,738 人がルーワイ胃バイパス術 (RYGB)、610 人が腹腔鏡下胃緊縛術 (LAGB)、110 人がそのほかの術式で施行された。調査開始時、774 人 (33%) に糖尿病、1,252 人 (63%) に脂質異常症、1,601 人 (68%) に高血圧があった。手術の 3 年後、ルーワイ胃バイパス術を受けた被験者の体重減少の中央値は 41kg、調査開始時からの体重減少率は 31.5%となった。腹腔鏡下胃緊縛術を受けた被験者では、体重減少は 20kg、体重減少率は 15.9%となった。どちらの術式でも、最も体重が減少したのは 1 年後であった。調査開始時に糖尿病があった被験者のうち、216 人のルーワイ胃バイパス術を受けた被験者 (67.5%) および 28 人の腹腔鏡下胃緊縛術を受けた被験者 (28.6%) は 3 年間で糖尿病が寛解した。糖尿病の発症率はルーワイ胃バイパス術後で 0.9%、腹腔鏡下胃緊縛術後で 3.2%となった。脂質異常症はルーワイ胃バイパス術を受けた被験者 237 人 (61.9%)、腹腔鏡下胃緊縛術を受けた被験者 39 人 (27.1%) で解消；高血圧の寛解がルーワイ胃バイパス術の被験者で 269 人 (38.2%)、腹腔鏡下胃緊縛術の被験者で 43 人 (17.4%) にみられた。

したがって、重度の肥満症の患者において、肥満手術後 3 年で相当量の体重減少がみられ、体重変化は 1 年後が最も大きかった。しかし、体重減少量や糖尿病、血圧、脂質の変化は一様ではなかった。

出典：Journal of the American Medical Association 2013；310(22): 2416-2425